

平成23年9月20日

保護者 各位

茨城県立取手第一高等学校

校長 根崎 稔美

放射線の除染作業結果について（報告）

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対し御理解と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、3月11日の東日本大震災直後に発生しました福島第一原発事故は、冷温停止状態の年内達成が宣言されているものの、未だに予断を許さない状況にあります。同原発事故による放射性物質放出に伴い、県内では3月15日未明から放射線量が急上昇し、5月に始まった全市町村測定で、取手・守谷両市を中心に県南地区の放射線量が高いことがわかりました。各研究機関の研究報告によると、3月21日に高濃度の放射性物質を含むプルーム（雲）が県南上空に到達し、その時の降雨と重なり放射性物質がこの地域に降下したと解析されております。

本校では、既に5月初旬から線量計を購入し計測を重ねてきており、校内で比較的に線量の高いところは、校内放送で生徒たちにも周知し、注意を促すとともに除染作業も行っていました。9月に入り、最も高い箇所を県教育委員会に依頼して厳密な測定をしたところ、テニスコート脇の調整池の8箇所で文部科学省の除染目安（高さ1mで毎時1マイクロヘルム）を上回っていることがわかり、9月10日の新聞各社の朝刊にその記事が掲載され、保護者の皆様方にもご心配をおかけしたところかと存じます。

早速9月16日に、日本原子力研究開発機構、県原子力安全対策課、県教育庁と本校教職員の合同で除染作業を実施しました。60名を超えるメンバーで1日ばかりで土壌の剥離を行い、高さ1mで毎時0.55~0.38マイクロヘルムまで低減することができました。土嚢で約500袋分の土泥を撤去し、仮置き場にブルーシートでくるんで保存することになりました。仮置き場となった調整池縁の道路沿いの空間線量も、上記の数値を更に下回ることができました。勿論、仮置き場付近は立入禁止区域とし、念のためテニス部の練習につきましても、利根川河川敷の取手市のテニスコートを借用して練習をしております。

今後とも本校としましては、校内の放射線量を継続的に計測し、除染作業も継続しながら生徒・保護者そして地域の皆様方の信頼に応えて参りますので、ご理解・ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

< 参考 >

